



株式会社

良品計画 第26期事業報告書

2004.3.1 - 2005.2.28

回復期から成長期へ、新しい良品計画の創造に邁進いたします。

株主の皆様には、益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。また日頃のご支援に対しまして、厚く御礼申し上げます。当期におきましては、連結で2期連続での増収と3期連続の増益を達成することができましたことをご報告させていただきます。

当期の期末配当金は30円とし、年間配当金は55円(中間配当金25円)と前期に比べ8円の増配とさせていただきます。

2004年度の
成果

連結では過去最高益となる
当期純利益を達成

2004年度の営業収益は1,284億68百万円(前年比7.2%増)、経常利益118億40百万円(同31.5%増)、当期純利益63億47百万円(同35.2%増)と2期連続の増収増益を達成いたしました。

弊社が継続して努めてまいりました商品開発力、販売力の強化等によって、衣服・雑貨部門の売上が前期より引き続き好調に推移したほか、ヘルス&ビューティーとステーションナリーを中心に生活雑貨部門の回復が鮮明となりました。この結果、直営既存店売上高が前年比2.3%のプラスと好調に推移いたしました。また期中には24店舗(うち直営店19店舗)を新設するほか、2店舗を直営移管、5店舗を閉鎖するなど店舗の効率化、標準化の推進をはかりました。さらに、在庫管理の徹底や業務構造の改善などにより、大幅な増益を達成いたしました。

海外事業につきましても、イギリス、フランス、アイルランド、香港では既存店売上高が前年を上回り、また期中に台湾と欧州へ新たに新店の効果とあわせ堅調に推移いたしました。今後とも着実に新店を進めてまいり所存でございます。

2005年度
経営テーマ

「進化」に向けて、「実行」をキーワードに
高い目標にチャレンジ

厳しい小売業界の環境の中、2005年度は回復期から成長期に向け、引き続き商品開発力の強化、販売力のレベルアップ、ローコストオペレーション体制の確立、海外ビジネスの拡大等を重点政策に掲げ、引き続き取り組んでまいります。商品開発では復活した生活雑貨を中心にさらなるブランドの進化を目指します。世界のデザイナーたちとの取り組みによる「World MUJI」、また、世界中の優れた日用品から学ぶ「Found MUJI」、お客様とのコミュニケーションによる商品開発など、ハイクオリティでベーシック、リーズナブルプライスの商品作りを追求してまいります。

販売力の強化については、販売技術の革新、営業計画力の進化、業務改革を進め、販売チャネルによる格差の是正にも努めてまいります。

また、経営基盤や財務体質を強化すべく、売上高販管費率を30%まで引き下げること目標に店舗作業や本部業務、賃料など8つのプロジェクトからなる「30%委員会」を設置して、ローコストオペレーションの体制確立を目指してまいります。



海外事業につきましては、1店舗単位での黒字化を念頭に着実な出店を継続、今年度は新たにドイツ、スペイン、ノルウェー、中国への出店を計画、中期的にはアメリカへの出店も検討しております。

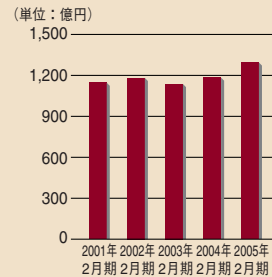
これらの達成を通じて、企業価値の最大化を実現するとともに、コンプライアンスの徹底をはかり、これにより株主様、お客様をはじめとするステークホルダーとのさらなる信頼関係の構築に努め、社員一人ひとりが「実行」をキーワードに、中期計画目標である2006年度経常利益150億円の達成に向けてチャレンジしてまいります。

今後とも格段のご支援を賜りますよう、お願い申し上げます。

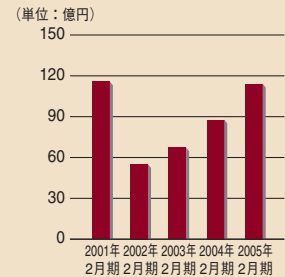
代表取締役社長

松井 忠三

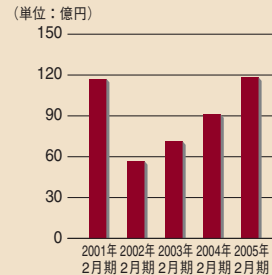
●連結売上高



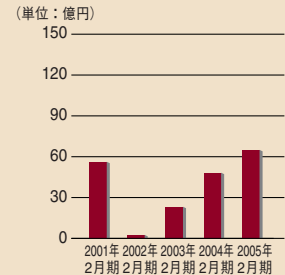
●連結営業利益



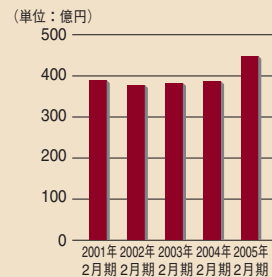
●連結経常利益



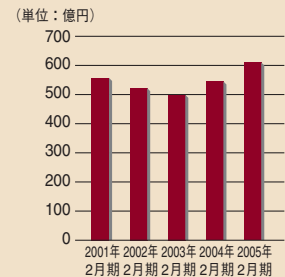
●連結当期純利益



●連結株主資本



●連結総資産



I : 新しい良品計画の創造

ブランドの進化

無印良品は1980年、株式会社西友のプライベートブランドとしてスタートしました。コンセプトはそのネーミングにすべてが凝縮されています。それは、生活者の立場に立って商品の原点を見直し、実質本位の商品を品質は落さずにより安く提供する、というものでした。そして「わけあって、安い」のコピーとともに40品目がデビューしました。現在では5,800アイテムを超えるまでに成長した無印良品ですが、誕生から25年目を迎え、コンセプトである“商品の原点を見直す”という姿勢を再確認し、「わけあって、安い」というコピーも時代に合わせ、例えば賢い低価格、豊かな低コストというように、その意味合いを変化させて、ブランドの進化を進めてまいります。

また、無印良品のコンセプトに共感する世界の優れた才能や知恵による「World MUJI」、異なった文化から生まれた日用品に学ぶ「Found MUJI」、これらの商品群を今年度より本格的に送り出してまいります。

無印良品が目指すのは、「これがいい」ではなく「これでいい」という理性的な満足感をお客様に持たせていただくこと。つまり品質も価格も十分「これでいい」という意味です。

ただ、そこに若干含まれているかも知れない不満や妥協を解消して、自信に満ちた「これでいい」を実現していきたい



と考えております。

2004年度期初に掲げた目標(伸び率)、直営既存店売上高102%、全社売上高107%、経常利益120%に対して、実績はそれぞれ102.3%、107.3%、131.5%となりました。特に経常利益の大幅な伸長の要因は直営店が拡大したこと、建値消化率が高まったことにより、売上総利益率が昨年差1.5ポイント改善したことが大きく貢献しています。当期利益は前期比135.2%となる63億円で過去最高益を達成いたしました。

2005年度におきましては、中期計画目標である2006年度経常利益150億円に向けて、さらに業務改革を推進し、これまでの経常利益最高益である1999年度の133億円を超えるべくチャレンジしてまいります。

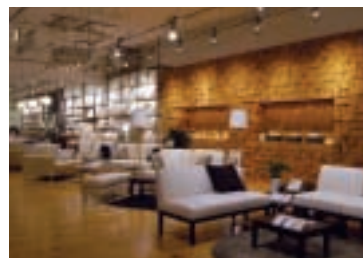
II : 過去最高益へのチャレンジ

1. 生活雑貨を競争力の源泉に

2004年度におきましては、特に小物商品と呼ばれるステーションナリーやヘルス&ビューティーを中心に商品力が回復し、生活雑貨部門の業績は7つの部門全てにおいて昨年実績を上まわり、合計では前年比105.2%と大きく回復いたしました。下期には新規に発売した商品がほぼ計画どおりの販売実績を上げ、そのアイテム構成比28%に対して売上構成比は29%とな

りました。新規商品の先行発売等の施策が計画を底上げし、既存商品の復活にもつながりました。

2005年度は生活雑貨をさらに高



い水準に上げていきます。商品開発力のレベルアップをはかるため商品企画ミーティングの充実、「World MUJI」や「Found MUJI」の強化・拡大、お客様とのコミュニケーションによる商品開発等に取り組み、一層顧客ニーズに則した商品開発力の向上に注力いたします。

2. 販売の高度化

店舗スタッフの1日の業務の中で多くを占めている発注業務の時間を軽減し、より接客を中心とした販売に専念できるよう導入された自動発注システム「PROFIT」や、店舗スタッフ全員が各部門の売れ筋商品を把握する活動である「売れ筋捜査」、スタッフ各自のお勧め商品の訴求活動を行う「一品入魂」、全社をあげて販売技術を競う「販売コンクール」など、新たな販売手法を通じて、販売技術の革新に取り組んでいます。また、営業計画力を進化させるべく、営業計画委員会をさらに活性化し、精度の高い営業展開計画の作成やプロモーション内容の深化に努めています。併せて出店、既存店の改装、新什器の開発等を積極的に進めてまいります。

店舗の業務改革としては、店舗スタッフのシフトコントロールの適正化、レジ業務をはじめとする店舗のあらゆる業務の効率化にも引き続き取り組んでまいります。

3. ローコストオペレーション体制の確立

2004年度より売上高販管費率30%という目標に取り組んでおりますが、同期の実績は34.1%と課題を残しています。2005年度は引き続きその早期達成を目指してまいります。そのために店舗作業・倉庫、本部業務、在庫・直接貿易、保全管財、人件費等、8つのプロジェクトからなる「30%委員会」で取り組んでまいります。また、従来の「主管部主義」から「部門長主義」への転換

を掲げ、実際に経費を使う立場の部門長がコスト意識をもって推進してまいります。生産性の向上につきましては、「無駄な業務の廃止」や店舗の業務改革の取り組みである「スマートオペレーションプロジェクト」も進化させ、全ての業務においてその構造の変革を実現してまいります。

4. 海外ビジネスの拡大

2004年度は海外既存店の売上が堅調に推移し、新規出店も過去最多の10店舗となりました。台湾では4店舗を出店し、いずれも売上は好調に推移し初年度から利益を計上しました。欧州ではフランス、スウェーデンとイタリアに出店し、特にイタリアでの業績が好調に推移しております。海外売上高は90億円を超え、連結売上高の7.1%を占めています。経常利益も2期連続で最高益を更新いたしました。

2005年度は新たにドイツ、スペイン、ノルウェー、中国への出店と、アメリカへの進出という当社の最終目標に向けて準備を開始してまいります。現在、当社は9つの国・地域に出店している他、ニューヨーク近代美術館(MoMA)デザインストアに商品を供給しております。海外出店は1店舗1店舗確実に黒字化するように進めてまいります。



(スウェーデン)



MUJI BREEZE CENTER(台湾)

衣服・雑貨

引き続き増収を達成

天候不順にともない秋冬商材で苦戦したものの、前期に引き続き高品質素材を発掘するとともに、調達コストの削減等に取り組みながら商品の完成度を上げ、ニットやカットソーなどの婦人ウエア、マタニティやベビーサンダルなどがヒットした子供服を中心に好調を持続、さらに建値消化率も高まり、差益率が向上いたしました。これらの結果、商品別売上高は419億94百万円、前年比107.9%となりました。

一方、見直しの遅れた靴・バッグ、服飾雑貨を再建するため、ヨウジヤマモト社とチームを組んで取り組んで



まいります。また、新什器を投入し、新しい環境と売り方で売場の刷新をはかってまいります。

ご好評商品

●カシミアセーター

当社が2004年10月から発売したカシミアセーターは、最高級といわれる中国内蒙古自治区(内モンゴル)原産のホワイトカシミアを使い、原毛から通常より細い糸に撚り、16ゲージというしなやかで素肌にも着られる極上品に仕立てました。婦人用にはVネックセーターとタートルネックセーター、紳士向けにはクルーネックセーターとタートルネックセーターの2種類を用意し、主要店舗以外に無印良品ネットストアでも販売し、大変ご好評をいただきました。

生活雑貨

小物商品や新商品が好調で業績回復へ

生活雑貨の建て直しを当社の最重要課題として商品開発、売場作り、在庫コントロールに取り組んでまいりました結果、特にヘルス&ビューティー、ステーションナリーといった小物を中心に商品力が回復し、復活が鮮明になりました。ベストセラーである「体にフィットするソファ」はもとより、新規商品では無印良品のファニチャーを代表する脚付マットレスの品質をさらに向上させた「脚付ポケットコイルマットレス」や、タモ材(堅く粘りのある木材)の家具シリーズが大きく貢献しました。エレクトロニクスではオイルヒーターや黒色AV家電、ハウスウェアでは白磁の和食器シリーズ等のヒット商品が生まれ、好調に推移いたしました。その結果、商品別売上高は629億39百万円、前年比105.2%となりました。



ご好評商品

オイルヒーター

オイルヒーターは火を使わないため空気を汚さず臭いも出ません。お子様がいるご家庭やアレルギーでお悩みの方を中心に、近年その安全・快適性が注目される暖房器具です。当社が2004年秋から発売したオイルヒーターはマイコン制御で省エネ設計、「シンプルでコンパクト」をテーマに本当に必要な機能だけを搭載し、2アイテムをお買い得価格でご提供して好評を博しました。

※1,200W型 18,000円(税込)
1,400W型 20,000円(税込)



食品

調味加工品、菓子が好調に推移

食品では商品開発体制の見直しによる成果が見られました。商品別では、今までになかった小袋タイプのレ

トルト商品の追加や積極的なプロモーション展開が奏効し、調味・加工品が伸長しました。菓子では季節限定商品の洋半生菓子や新シリーズとして発売したヨーロッパの伝統菓子が売上げを牽引し、好調に推移いたしました。

一方、チョコレートは少し苦戦しましたが、作り手の手間やコストよりも、素材や美味しさにとことんこだわった伝統菓子の開発手法にならないチョコレートも見直しを進めております。飲料は仕様を見直した茶葉、インスタント飲料が好調に推移しましたが、PETボトル飲料の主要3アイテムが伸び悩みました。その結果、商品別売上高は103億27百万円、前年比104.5%となりました。今後は企画会社の活用、有力メーカーとのコラボレーション、常時商品開発の体制の強化、お客様の声による商品開発等、引き続き安全、健康、本物という要素に重点を置き取り組んでまいります。

ご好評商品

ヨーロッパの伝統菓子

当社の伝統菓子シリーズは、「フィナンシェ」「マドレーヌ」などヨーロッパで長い間受け継がれてきた伝統菓子を、その土地の香辛料や卵やバターなど素材にこだわって作り上げ、人気を博しています。また、人気のラインナップを詰め合わせたセットも、ギフトやパーティー、お客様のおもてなし等にご利用いただきやすく、ご好評いただいています。



・海外ビジネスは着実に収益力が向上

当社は海外展開を着実に拡大し、2004年度は9月にイタリア、12月には韓国に現地法人を設立したほか、直営店としてフランス、イタリア、香港に各1店舗を新設、さらに供給先としてスウェーデン3店舗、合弁事業の台湾4店舗、計10店舗を新設し、2005年2月末現在の海外店舗は計36店舗となりました。

当社グループの海外事業はイギリス、フランス、アイルランド、香港では既存店売上高が前年を上回り、また台湾には合弁会社を通じて4店舗を出店し、初年度から利益を計上するほど好調に推移しています。今後は既に進出している国・地域での出店を継続するとともに、ドイツ等への進出、また中期的には、アメリカへの出店準備を進めてまいります。



MUJI XIMEN (台湾)



MUJI MILANO CORSO BUENOS AIRES (イタリア)



MUJI+INFILL 有楽町

・有楽町店の改装オープンにともない、「木の家」モデルハウスが完成

当社の旗艦店舗である「無印良品有楽町」は、オープン3周年にあたり2004年9月から10月にかけて改装し、リニューアルオープンいたしました。店内1階には「MUJI+INFILL木の家」のモデルハウスを建設し、お客様の注目を集めています。

従来から良品計画グループのムジ・ネット株式会社では、無印良品のコンセプトを活かした新しい住空間事業「MUJI+INFILL(ムジ・インフィル)」を展開しています。同社は既に取り組んでいるマンションのリフォーム事業に続いて「MUJI+INFILL木の家」という木造住宅の販売を本格的に開始し、その第1号店として有楽町店屋内に「MUJI+INFILL 有楽町」を開設しました。住む人のライフステージや家族構成の変化に応じて、自由に間取りを「編集」できる新しい住まい(空間)です。これを実現するために、内部は開放的な吹き抜けを持った箱型の一室空間としています。建物本体はSE構法(※)、部材に集成材を採用し、強度の高い住まい

を実現しています。モデルハウスでは敷地の大きさや条件を想定した35の標準プランに基づき、お客様と相談しながら暮らし方をコーディネートしていくオーダーシステムで販売いたします。

ムジ・ネット株式会社はパートナー企業とのネットワークにより、「MUJI+INFILL木の家」事業の全国展開(北海道、沖縄、多雪地域を除く)を目指しております。

(www.muji.net/infillをご参照ください)

※ SE構法について

SE構法の家は、強く安全です。集成材とこの工法のために開発されたSE金物を使用し、木造でありながら強度の高い住宅建築が可能になりました。

SはSafety、EはEngineeringを表します。安全で工学的な工法です。

・料理教室 “KITCHEN ATELIER MUJI” 開講

当社では、「食」に対する考え方が学べる「KITCHEN ATELIER MUJI」を無印良品有楽町店内のATELIER MUJIにて開催しております。物質的な豊かさの追求から脱皮し、無印良品の目指す豊かな生活の一つとして



「食」というテーマは極めて重要だと考えています。この教室は単に料理技術を身につける場ではなく、

「食」に関する知識・考え方をテーマとして第1回目を開催、各講座とも大変ご好評をいただきました。1クラス定員8名を基本とし、お一人様に一台ずつ簡易厨房をご用意し、「食」について広く学びながら料理、食事、会話を楽しむことを目的としています。

・ドイツ iF デザイン賞で 5つの「金賞」を受賞

「無印良品」の5アイテムが世界の優れたデザインに贈られる「iF design award 2005(プロダクト部門)」で「金賞」を受賞いたしました。

iFデザイン賞は1953年、ドイツ産業見本市株式会社とその他のデザイン関係の団体によって設立された国際的なフォーラム デザインというデザインセンターによって運営され、世界的に最も権威のあるデザイン賞の一つとして知られています。今年度は31ヶ国740団体より2,200アイテムのエントリーがあり、「無印良品」は13アイテムをエントリー、そのうち9アイテムが入賞し、電話機、DVDプレーヤー、CDラジオ、シュレッダー、角紙管ラックシステムの5アイテムが「金賞」を受賞しました。



連結財務諸表

連結貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2005年2月28日現在)	(2004年2月29日現在)
資産の部		
流動資産	34,366	29,113
固定資産	26,290	25,425
有形固定資産	11,255	10,984
無形固定資産	3,290	2,621
投資その他の資産	11,743	11,819
資産合計	60,657	54,538
負債の部		
流動負債	14,491	14,935
固定負債	600	460
負債合計	15,092	15,395
少数株主持分		
少数株主持分	249	277
資本の部		
資本金	6,766	6,766
資本剰余金	10,106	10,075
利益剰余金	30,583	25,625
その他有価証券評価差額金	6	24
為替換算調整勘定	91	41
自己株式	△2,239	△3,667
資本合計	45,315	38,865
負債・少数株主持分及び資本合計	60,657	54,538

連結損益計算書

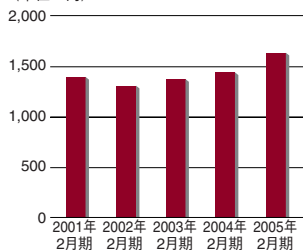
(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2004年3月1日から 2005年2月28日まで)	(2003年3月1日から 2004年2月29日まで)
売上高	127,836	119,189
売上原価	71,724	68,590
売上総利益	56,112	50,598
営業収入	631	638
営業総利益	56,744	51,236
販売費及び一般管理費	45,265	42,446
営業利益	11,478	8,790
営業外収益	430	298
営業外費用	68	85
經常利益	11,840	9,003
特別利益	52	132
特別損失	1,013	979
税金等調整前当期純利益	10,879	8,155
法人税、住民税及び事業税	4,480	3,569
法人税等調整額	△77	△177
少数株主利益	129	69
当期純利益	6,347	4,695

主要経営指標

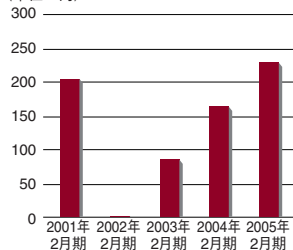
●連結1株当たり株主資本

(単位:円)



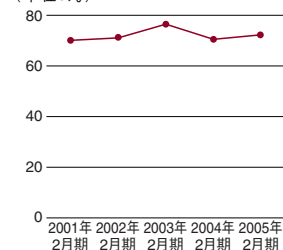
●連結1株当たり当期純利益

(単位:円)



●連結株主資本比率

(単位:%)



連結剰余金計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2004年3月1日から 2005年2月28日まで)	(2003年3月1日から 2004年2月29日まで)
資本剰余金の部		
資本剰余金期首残高	10,075	10,075
資本剰余金増加高	30	—
自己株式処分差益	30	—
資本剰余金減少高	—	—
資本剰余金期末残高	10,106	10,075
利益剰余金の部		
利益剰余金期首残高	25,625	22,150
利益剰余金増加高	6,347	4,695
当期純利益	6,347	4,695
利益剰余金減少高	1,389	1,220
配当金	1,352	1,220
役員賞与	37	—
利益剰余金期末残高	30,583	25,625

連結キャッシュ・フロー計算書

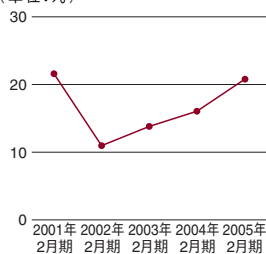
(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2004年3月1日から 2005年2月28日まで)	(2003年3月1日から 2004年2月29日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	8,375	11,423
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 3,577	△ 2,239
財務活動によるキャッシュ・フロー	348	△ 4,221
現金及び現金同等物に係る換算差額	37	△ 31
現金及び現金同等物の増加額	5,184	4,932
現金及び現金同等物の期首残高	11,776	6,844
現金及び現金同等物の期末残高	16,961	11,776

注)連結財務諸表の記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

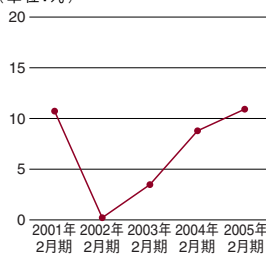
●連結総資産経常利益率

(単位:%)



●連結総資産当期純利益率 (ROA)

(単位:%)



●連結株主資本当期純利益率 (ROE)

(単位:%)



単体財務諸表

単体貸借対照表

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2005年2月28日現在)	(2004年2月29日現在)
資産の部		
流動資産	30,590	26,641
固定資産	28,429	26,933
有形固定資産	10,493	10,346
無形固定資産	2,482	2,445
投資その他の資産	15,453	14,141
資産合計	59,019	53,574
負債の部		
流動負債	13,236	13,993
固定負債	600	452
負債合計	13,837	14,445
資本の部		
資本金	6,766	6,766
資本剰余金	10,106	10,075
資本準備金	10,075	10,075
その他資本剰余金	30	—
自己株式処分差益	30	—
利益剰余金	30,541	25,930
利益準備金	493	493
任意積立金	23,700	20,700
別途積立金	23,700	20,700
当期末処分利益	6,348	4,737
株式等評価差額金	6	24
自己株式	△2,239	△3,667
資本合計	45,182	39,129
負債及び資本合計	59,019	53,574

単体損益計算書

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2004年3月1日から 2005年2月28日まで)	(2003年3月1日から 2004年2月29日まで)
経常損益の部		
営業損益		
営業収益	117,663	110,702
営業費用	106,699	102,340
営業利益	10,963	8,361
営業外損益		
営業外収益	275	397
営業外費用	76	92
経常利益	11,161	8,667
特別損益の部		
特別利益	40	126
特別損失	962	945
税引前当期純利益	10,239	7,848
法人税、住民税及び事業税	4,360	3,485
法人税等調整額	△121	△174
当期純利益	6,000	4,537
前期繰越利益	1,027	810
中間配当額	679	610
当期末処分利益	6,348	4,737

利益処分

(単位:百万円)

科目	当期	前期
	(2004年3月1日から 2005年2月28日まで)	(2003年3月1日から 2004年2月29日まで)
(当期末処分利益の処分)		
当期末処分利益	6,348	4,737
これを次のとおり処分いたします。		
利益配当金	820	672
(1株につき30円)	(1株につき30円)	(1株につき25円)
役員賞与金 (うち監査役賞与金)	58 (7)	37 (2)
別途積立金	2,500	3,000
次期繰越利益	2,969	1,027
(その他資本剰余金の処分)		
その他資本剰余金	30	—
自己株式処分差益	30	—
これを次のとおり処分いたします。		
その他資本剰余金処分額	—	—
その他資本剰余金次期繰越高	30	—
自己株式処分差益	30	—

注1) 2004年11月1日に679百万円(1株につき25円)の中間配当を実施しております。

注2) 単体財務諸表の記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

「地球と生きる5原則」の設定

1980年の誕生以来、無印良品は「素材の選択」「工程の点検」「包装の簡略化」の3つをモノづくりの基本としてまいりました。そこには環境への配慮が当然のこととして組み込まれております。企業の環境活動や情報開示に対する社会的な要請が高まる中、それらの取り組みを体系化し、環境や社会に対する側面から目指すことを「地球と生きる5原則」として決めました。

●地球と生きる5原則

1. 全ての活動において国内外法令を遵守します
2. 人体や環境に深刻な影響をもたらすと懸念される物質については使用制限を定め、使用する場合は情報を公開します
3. 天然の素材についてはトレーサビリティの実施に努めます
4. モジュール統一、分別可能、包装簡略化などを取り入れ、廃棄物の削減を図ります
5. 無印良品と関わる全ての人々とのコミュニケーションを充実させます

中期目標の設定

「地球と生きる5原則」を実現するために2006年までに実施すべきことを中期目標として決めました。

「良品計画の環境・労働・安全マネジメント(取引先行動規範)」を商品製造委託基本契約書に包含し、締結します

法令遵守(5原則-1)やお取引先様とのコミュニケーションの充実(5原則-5)に対応しています。

「使わない」「制限する」重点5素材の設定と着地

重点5素材とは、1.塩化ビニル樹脂(安全性、機能保持以外の理由では使用禁止)、2.フッ素(経口部分、食品接触部分、加熱部位への使用禁止)、3.ホルムアルデヒド(JAS・JIS規格のレベル制限)、4.森林資源(違法伐採関与材の使用禁止)、5.ステビア、ソルビン酸(使用禁止)を指します。

ホームページの開始

企業ホームページの中に「環境について今、考えていること。」を2005年3月1日にスタートさせました。「本当のことは誰もわかってはいないけれど、何かを見つきたい」という姿勢でのコミュニケーションを重視しています。「人間」と「自然」の関係について意見を交わし、一緒に考えて行こうという呼びかけを行っています。



<http://ryohin-keikaku.jp/csr/>

会社概要

会社名 株式会社良品計画
 RYOHIN KEIKAKU CO.,LTD.
所在地 〒170-8424 東京都豊島区東池袋四丁目26番3号
電話 03-3989-4403 (総務人事担当)
設立 1989年6月(登記上1979年5月)
※額面変更のため合併を行っております。
資本金 67億6,625万円
決算日 2月末日
年商 1,176億円(2005年2月期営業収益)
従業員数 863名
店舗数 直営店141店舗、商品供給店144店舗
海外店舗数 イギリス15店舗/フランス5店舗/イタリア1店舗/
 アイルランド1店舗/スウェーデン3店舗/香港4店舗/
 シンガポール2店舗/台湾4店舗/韓国1店舗
(アイルランド、スウェーデンは商品供給店舗)
※その他、ニューヨーク近代美術館(MoMA) デザインストアへ
 の商品供給
主な事業 「無印良品」を中心とした専門店事業の運営/
 商品企画/開発/製造/卸し及び販売

(2005年2月28日現在)

役員

代表取締役社長 (兼)執行役員	松井忠三	常勤監査役	松井仁
代表取締役専務 取締役(兼)執行役員	金井政明	監査役	須田敏保
専務取締役 (兼)執行役員	古田正信	監査役	吉澤義仁
常務取締役 (兼)執行役員	浅田直照	監査役	内田省三
取締役 (兼)執行役員	長谷川治	執行役員	徳江純一
取締役 (兼)執行役員	加藤隆志	執行役員	久保正人
社外取締役	藤原秀次郎	執行役員	大木宏人
社外取締役	植松富司	執行役員	鈴木啓
社外取締役	中野淳一		

(2005年5月25日現在)

会計監査人

中央青山監査法人
 東京都千代田区霞が関三丁目2番5号 霞が関ビル

(2005年5月25日現在)

良品計画グループ

●物流加工
 株式会社
 アール・ケイ・トラック

●e-ビジネス・住空間事業
 ムジ・ネット株式会社

●生花の販売
 株式会社花良品

●海外小売
 RYOHIN KEIKAKU
 EUROPE LTD.
 イギリス(ロンドン)

RYOHIN KEIKAKU
 FRANCE S. A. S.
 フランス(パリ)

MUJI ITALIA S.p.A.
 イタリア(ミラノ)

無印良品(香港)有限公司
 中国(香港)

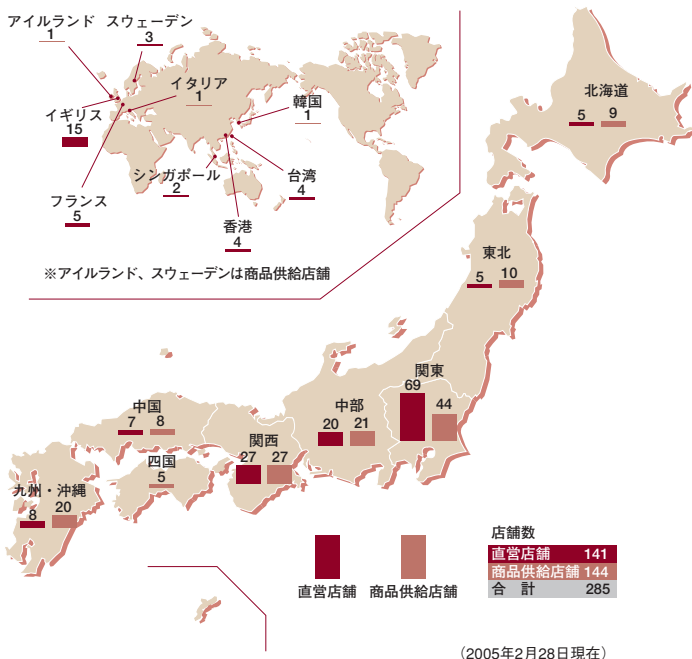
MUJI (SINGAPORE)
 PRAIVATE LTD.
 シンガポール

台湾無印良品股份
 有限公司
 台湾(台北)

MUJI Korea Co.,Ltd.
 韓国(ソウル)

(2005年2月28日現在)

無印良品店舗展開



株式の状況

- 会社が発行する株式の総数 ……………112,312,000株
- 発行済株式の総数……………28,078,000株
- 株主数……………14,954名
(2005年2月28日現在)

大株主

株主名	持株数	議決権比率
日本マスタートラスト 信託銀行(株)信託口	4,409 ^{千株}	16.12 [%]
日本トラスティ・サービス 信託銀行(株)(信託口)	2,012	7.35
三菱商事(株)	1,078	3.94
ザチエスマンハツタンバンクエヌエイロンドン エスエルオムニバスアカウント	964	3.52
資産管理サービス 信託銀行(株)信託B口	869	3.17
野村信託銀行(株)(投信口)	790	2.89
野村證券(株)	787	2.87
モルガン・スタンレー・アンド・カンパニーインク	649	2.37
カリヨン バリ オーデイナリー アカウト	445	1.62
バンク オブ ニューヨーク ジーシーエム クライアント アカウンツ イー アイエスジー	376	1.37

注) 当社は、自己株式723,357株を保有しております。

(2005年2月28日現在)

株主メモ

- 決算期 毎年2月末日
- 定時株主総会 毎年5月
- 同総会議決権行使
株主確定日 毎年2月末日
- 利益配当金受領
株主確定日 毎年2月末日
- 中間配当金受領
株主確定日 中間配当を行う場合は、毎年8月31日
- 名義書換代理人 大阪市中央区北浜四丁目5番33号
住友信託銀行株式会社
- 同事務取扱場所 東京都千代田区丸の内一丁目4番4号
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (郵便物送付先) 〒183-8701 東京都府中市日鋼町1番10
住友信託銀行株式会社 証券代行部
- (電話照会先) (住所変更等用紙のご請求) ☎0120-175-417
(その他のご照会) ☎0120-176-417
- 同取次所 住友信託銀行株式会社 本店及び全国各支店
- 公告掲載新聞 日本経済新聞
- 1単元の株式数 100株

決算公告の電子化について

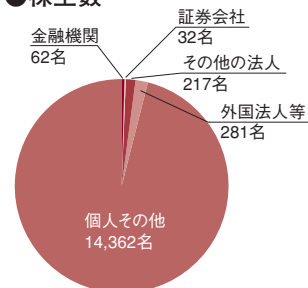
当社は、貸借対照表及び損益計算書を、日本経済新聞による公告に代えて、ホームページに掲載いたしております。

当社の決算公告が掲載されているホームページアドレスは次のとおりです。

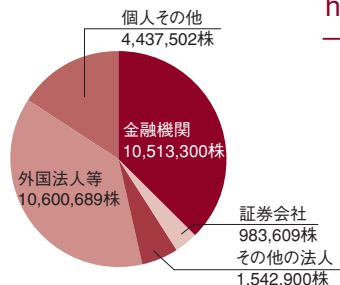
<http://ryohin-keikaku.jp/>

株主分布状況

●株主数



●所有株式数



注) 個人その他には、自己株式1名723,357株を含んでおります。

(2005年2月28日現在)

表紙の写真について

「茶室と無印良品」

写真は国宝、慈照寺(通称 銀閣寺)・東求堂「同仁齋」。茶室の源流であり、今日言われる「和室」のはじまりとなった空間です。

簡素さの中に価値や美意識を見立てていく無印良品の思想の源流はここにあります。適切な素材と技術を用いて誰にでも、そしてどこにでも用いることのできる自在性、つまり「見立て」によって無限の可能性を発揮できるものあり方を目指しています。

株式会社 良品計画

〒170-8424 東京都豊島区東池袋4-26-3

Tel.03-3989-4403 (総務人事担当)